

# 校名：福島大学附属小学校

所在地：〒960-8022 福島市新浜町4-6

電話番号：024-534-3942

記載日：平成28年 5月20日 記載者：大石 正文

記載者役職：副校長

## 貴校の校風、おおまかな特色について：

本校は明治7年に小学教則講習所として福島小学校に附設され、明治13年5月24日に福島師範学校附属小学校として創立した。その後、昭和26年に福島大学学芸学部附属小学校、昭和41年に福島大学教育学部附属小学校、平成17年に福島大学附属小学校と改称し、今年で136周年を迎える。昭和2年以降の卒業生は7000人を超え、地域の教育、経済、司法、行政などのリーダーだけでなく、全国で活躍するなど、歴史と伝統のある小学校である。

### 〈教育目標〉

未来の可能性に立ち向かって 愛と英知をもち たくましく前進する 創造性豊かな人間の育成をめざす

知…進んで考える子ども

情…美しさを感じる子ども

意…最後までやりぬく子ども

体…からだをきたえる明るい子ども

社…思いやりのある子ども

〈平成28年度 推進テーマ〉 思いやりのあるチーム附属をめざして

全校児童613名、好奇心旺盛で学ぶ意欲が高い子どもたちが多い。

6年生がお父さん、お母さんとして活動する縦割り活動「あおい家族」では、自分たちの家族がもっと楽しい家族に、そしてよりよい家族になるために子どもたちが主体的な活動が行われている。6年生へのあこがれをもち、下級生には優しく接しようとする思いが育まれている。

福島県内各地から着任した研究熱心な若い教師集団が子どもたちと共に、「子どもが真ん中」を合い言葉に日々の実践を積み重ねている。

また、特色ある活動として、総合的な学習の時間や学校行事を挙げることができる。

### 〈総合的な学習の時間〉

毎年、数日をかけて体験活動を通し、自己の生き方を見つめる学びを展開している。

2014年 6年：鎌倉 5年：山形 4年：会津

2015年 6年：巢鴨 5年：仙台 4年：喜多方

### 〈学校行事：あおいスポーツフェスタ〉

9月の土曜日に実施する。縦割り、4色に分かれて競技する。昨年度は「つながる」のテーマの基、6年生がリーダーシップを発揮し各色の活動が展開された。各色のダンスを創作したり、学年ごとの競技について、これまでの経験を生かして上学年が下学年に寄り添い教え合ったりしている。また、土曜日1日だけの活動ではなく、活動の過程を大切に考え、土曜日までの8日間をスポーツフェスタ期間として教育課程に位置付けている。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 本校同窓会により、追跡調査を行っている。
- ② 同窓会が把握している情報は7, 000名程度。(昭和2年以降)
- ③ 本校卒業生の活躍状況について  
県教育委員会教育長，教員（県小学校長会長，県中学校長会長他），大学教員，議員，医師，弁護士，アニメーション作家（国際アニメフェスティバルグランプリ），音楽家（文化庁芸術祭賞受賞等），リオデジャネイロオリンピック参加標準記録到達選手，東京オリンピックダイヤモンドアスリート指定選手 等多数

平成28年5月現在

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 各教科等でもっているOB，OG名簿の勤務先を毎年更新している。
- ② 各教科等のOB，OG名簿を校内で保管している。
- ③ 本校勤務経験者の活躍状況  
文部科学省教科調査官・学力調査官，義務教育課長はじめ県教育庁関係者（所長，主幹，指導主事等），市町村教育委員会教育長はじめ指導主事等，県内小中学校長・教頭，国立大学教員 等多数

平成28年5月現在

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

- 研究主題「たくましく 歩み続ける」を設定し、「『ひと・もの・こと』と豊かにかかわり，新たな学びを拓いていく子ども」の姿を具現するために，授業における学びの力を「求める続ける力」「かかわり合う力」「創り上げる力」「自己を見つめる力」とし，より丁寧に子どもの学びを見取ろうとする本校研究は，今後学習指導要領改訂の視点となる，新しい時代に必要となる資質・能力の育成（何ができるようになるか），育成すべき資質・能力を踏まえた教科・科目等の新設や目標・内容の見直し（何を学ぶか），アクティブ・ラーニングの視点からの不断の授業改善（どのように学ぶか）に深く関連しているものであり，県内公立学校からも先行研究としての期待が高い。
- 研究公開では，大学，県教育委員会，県教育センターの先生方と連携をして授業を行っている。公開事前打合わせやメールなどで授業についてご相談したりご指導をいただいたりしている。

4月 授業参観を基にした事後研究会、公開授業に向けての打合わせ（大学、県教委）  
5月 研究公開授業に向けての相談（大学、県教委）  
6月 研究公開での指導助言（大学、県教委）  
7月～3月 実践授業

- 大学附属の幼稚園、小学校、中学校、特別支援学校、大学の連絡協議会をつくり、情報交換や連携の在り方を協議している。授業実践を互いに参観できるように連絡をし、小中や幼小の接続がスムーズにできるようにしている。
- 本校教員が地域の現職教育の講師となり、飛び込み授業をさせていただいたり、研究協議に指導助言者として参加させていただいたりする中で、本校の研究を広めている。
- 学校事務の軽減・効率化を目的とした校務支援システムの導入、蔵書の充実と共に児童一人一台配当するタブレットを活用した学校図書館の情報センター化、児童の安全確保のための監視カメラ設置等、これからの学校の目指すべき姿をソフト面だけでなく、ハード面からも提案している。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

- 本校卒業生は、県内外の要職に就き活躍しており、東日本大震災復興の担い手として、欠かせない存在である。国立大学附属であるが、地域の学校として根付いており、震災からの復興に向け、優秀な人材の育成、排出が期待されている。
- 各教育活動において、県教育委員会、市教育委員会とも連携して取り組んでおり、県内の児童市内の児童として活躍が期待されている。
- 恵まれた施設、優秀な教職員や大学教員のもとで学ぶことができる学校が地域に存在することは、特に地方都市においては高いニーズがあると考えます。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

- 本県における附属小学校は、地域教育の維持向上を図る拠点として重要な役割を果たしてきている。
  - ・ 県教育委員会との交流人事により、優秀な教員を派遣していただいております。数年間附属小学校で研鑽し実力を高めた後、各地域のミドルリーダーとして戻り、教育水準の向上に尽力してきました。
  - ・ その後、県及び市町村の教育委員会の要職に就く者も多く、教育行政の向上発展に努め、県民、市民に深く貢献してきています。
  - ・ 研究公開や研修講座等の開催を通じ、大学や県・市教育委員会で求める教員の資質向上に向けた現職教員の実践研究の場としての役割を果たしてきました。

- 教育実習を通して、これまでに多数の教員を養成してきた。公立学校においては、年間に数十名～百数十名の教育実習生を受け入れ実習授業を指導することや、体系的な指導を行うこと（全教科等の指導授業を専門の教員が行うこと等）は実質的に不可能である。
- 現職教育体系に基づいた教員のライフステージに応じた研修の場を提供してきた。（初任者等若手教員へは授業の基礎基本を学ぶ授業の公開、中堅教員に対しては派遣教員として校内研修への受け入れ、管理職・ベテラン教員のニーズに応じた教育講演会、シンポジウムの開催等）

○ 常に国や社会の動向，子どもや家庭，地域の抱える課題など踏まえ，先進的な教育の在り方を模索し，提案してきた。

- 平成 2 年 「豊かな学びの力を育てる」を研究主題に新たに創設される生活科をはじめ，新学習指導要領の趣旨を先取りした研究成果を提案した。
- 平成 7 年 文部省からの研究開発学校の指定を受け，「21 世紀に生きる心豊かな人間を育成する教育課程の創造」を研究主題に，社会の変化に主体的に対応して生きていくために必要な資質や能力を育成することを目指し，新しい教科の構成について提案した。（国語科，算数科，地球科，人間科，表現科，道徳）
- 平成12年 研究開発の成果を踏まえ，「生きる力」を培うことを目指した新学習指導要領を先取りし，新設される総合的な学習の時間の在り方等を提案した研究「学ぶ楽しさ，生きる喜びに満ちた子どもの育成」  
また，学校週5日制の完全実施を先取りした教育課程の提案（大単元構想，前期・後期二期制の実施等）
- 平成13年 児童の安全確保に向けたソフト面，ハード面の整備（警備員の配置，監視カメラの導入，不審者対応マニュアル作成等）
- 平成19年 附属幼・小・中・特別支援学校で共通の求める子ども像「自己デザインができる人間」及び必要とされる資質・能力(key Competency)の育成に取り組む KeCoFu プロジェクトの実施。
- 平成20年 「困り感」のある児童に寄り添ったきめ細やかな支援を行う「ほっとルーム」の開設（平成17年「リソース・ルーム」をスタート）
- 平成23年 東日本大震災後の教育課程，授業の在り方を構築。防災・放射線教育の実施。
- 平成25年 平成27年学習指導要領一部改訂を先取りし「特別の教科道徳」の在り方を提案した公開授業の実施。

公立の学校に出向き，指導助言をしたり，示範授業を行ったりすることを通し，地域の学校の校内研修の活性化の一助を担っている。今まで，培ってきた教育研究のノウハウを生かし，各教科等の大きな大会の会場校を引き受けている。

（H28全国学校体育研究大会，H29小学校教育研究東北大会開催予定）

○ 平成 29 年度以降 教職大学院の開学が予定され，ミドルリーダーの養成，授業力や指導力，特別支援教育の教育実践エキスパートの養成を附属 4 校園や大学，公立学校との協力のもと推進する予定。教育実践の場の中核校としての役割を果たしていくために準備中。